

令和3年度 島根県技術士会 新年例会 式次第

日時：令和4年 1月22日（土）13:00～
場所：（協）島根県土質技術研究センター 会議室
〔Web 会議方式による開催〕

1. 開会挨拶 会長 木佐幸佳 13:00～13:08
2. 本日の進行について 研究部会 13:08～13:10
3. 研究報告（共同研究）の発表

- (1) 水資源・水環境研究分科会 13:10～13:35

宍道湖・中海に注ぐ松江市内の河川の水質の推移とその考察
大掛敏博、角谷篤志、田中秀典、西田修三

本年度は、中海に注ぐ本庄川、意宇川の2007～2019年度までの水質データの分析、代表的な河川の山居川、忌部川、玉湯川、来待川、意宇川の5河川の1991～2019年の約30年間の水質の経年変化と水質改善後の2007～2019年の13年間の水質の推移とその特徴について考察する。

- (2) 庭園文化研究分科会 13:35～14:00

茶庭の動線の変遷と出雲流庭園 武田隆司

出雲流庭園の発祥は、江戸末期に松平不昧の指図により松江につくられた茶庭「菅田庵」といわれる。茶庭は茶事を前提とした庭で、茶事の流れに沿った構造となっており、茶事の変遷により「人の動線」、「庭の構造」、「観賞方法」も変化してきたようである。

今回は、室町時代以降、菅田庵に至るまでの「茶庭の動線」の変遷を考察するとともに、明治以降に作庭された典型的な出雲流庭園とされる豪農屋敷の庭、そして現在の出雲平野の民家の庭に至るまでの変遷についても考察する。

- (3) 今福線研究分科会 14:00～14:25

12年目の活動を迎えて ～継続は力なり～ 和田 浩
旧三江線ガイドブック制作支援 ～土木建造物の専門家として参画～
酒井雄壮

コロナ禍により1年延期となった『第3回全国未成線サミット in 浜田』が、11月13日、14日に開催され成功裏に終えることができた。パネルディスカッションでは頻繁な情報発信や活動を続けていくことの重要性を確認した。

今年度より旧三江線の宇都井駅や高架橋の選奨土木遺産への認定に向けて、（仮称）旧三江線研究グループとして「NPO 法人江の川鐵道」と連携した活動を開始した。

12年目を迎えた今福線と新たに始まった旧三江線の活動を紹介する。

(4) 生物多様性研究分科会

14:25～14:50

生物多様性研究分科会 令和3年度 活動報告

細澤豪志、大嶋辰也

過年度から継続実施している『コウノトリの餌生物量調査』について、令和3年度は雲南市春殖地区、出雲市出西地区を対象に行った。調査に先立ち、地元関係者の方と意見交換を行ったほか、新たに植生調査や空中写真撮影を行った。

今回は、令和3年度の調査結果及び次年度の活動方針について報告する。

【休 憩】

14:50～15:00

(5) 島根県B級遺産研究分科会

15:00～15:25

島根県B級遺産(候補)「木コンクリート合成桁橋」(最終報告)

松浦寛司

出雲市小境町で供用される浜田橋は、北海道で開発された「木コンクリート合成桁橋」を島根バージョンとして曾田伴次郎氏により架橋された橋梁である。北海道に残存する同種橋にはない構造が、島根県独自の工夫として設けられたと考えられる。本年度入手した同種構造に関する設計資料と浜田橋を対比し、本橋に取り入れられた施設についてその特性を考察した。

本年度は、地元への最終の聞き取りや文献の再調査も行い全調査を完了した。

(6) エネルギー多様性研究分科会

15:25～15:50

エネルギー多様性研究分科会 活動報告

神庭和彦

パリ協定に基づく我が国の温室効果ガス削減目標として、2050年カーボンニュートラルと総合的で野心的な目標として、2030年度において温室効果ガスを2013年度から46%削減することを目指し、さらに50%の高みに向け挑戦を続けていくと表明した。

当研究分科会では、「エネルギーの多様性」をテーマに本年度は、太陽光発電及びバイオマス発電の発電所を視察している。視察結果をもとに日本の温室効果ガス削減目標を考察した。

(7) 防災研究分科会

15:50～16:00

防災研究分科会の活動方針と活動参加のお誘い

大坂伊作

4. 研究報告(個人研究)の発表

(8) 古代出雲国における測量と古地図の存在

吉田 薫 16:00～16:15

5. 技術士制度について

渡部 修 16:15～16:45

6. 閉会挨拶・事務連絡

研究部会、事務局長 16:45～16:55